

中村橋駅周辺まちづくり検討会

第4回美術のまち部会 議事要旨

[日 時]

令和5年12月19日（火） 18時30分から20時00分まで

[会 場]

サンライフ練馬3階 研修室第一・第二

[出席者]

部会長 伊東（美術館長）

委員 江村（商店会）、関口（商店会）、野島（町会）

須藤（区民）、前田（区民）

オブザーバー 荻原（専門調査員）

[事務局]

美術館再整備まちづくり担当課 竹内、松本、中山、納谷

美術館再整備担当課 稲永、越智

株式会社ユーマック(コンサルタント) 北山、中原

[傍聴者] 1名

[議事次第]

1. 開会

2. 議題

(1) アートを感じられるまちなみ整備について

3. その他

アートマルシェについて

[配布資料]

・資料1 アートを感じられるまちなみ整備について

・アートマルシェパンフレット

1. 開会

- ・事務局を進行役として、部会長の挨拶の後、プログラムに沿って議事を進めた。

部会長	<ul style="list-style-type: none">・本日の第4回美術のまち部会は最終回である。・前3回までに発言しきれなかったことや、さらに強調しておきたいことなど、皆さんからご意見をいただきたい。
-----	---

2. 議題

(1) アートを感じられるまちなみ整備について

- ・事務局から資料1の説明。

事務局	<ul style="list-style-type: none">・前回「美術のまち構想」骨子案でお示した3つの将来像のうち、「将来像1 まちのあちこちにアートなスポットがあふれている」の取組であるアートを感じられるまちなみ整備について、本日はご意見をいただきたい。・資料1表面は、これまでの検討会にていただいた主な意見である。これらを踏まえて、ポイントとなる箇所ごとにアートを感じられるまちなみ整備のイメージを示したものが資料1裏面である。・整備については美術館・図書館設計者の監修のもと、一体的に行うことを検討している。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・前回「美術のまち構想」骨子案を示したが、まちなみ整備については先行して検討を進める。・ソフト部分については、令和6年1月に開催予定のアートマルシェなどを行いつつ、引き続き検討を進めていきたい。

駅舎のアート化

委員	<ul style="list-style-type: none">・中村橋駅を、豊島園駅の改修（ハリー・ポッターの仕様）のようにできないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・豊島園駅の改修については、西武鉄道が検討し整備したものである。スタジオオツアー（ワーナーブラザーズ スタジオオツアー 東京メイキング・オブ・ハリー・ポッター）とデザインの統一化をするため、駅舎内の仕様変更、車両のラッピングなどを行った。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・駅舎のアートな演出を具体的に進めるには、西武鉄道にご協力いただきながら進める必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none">・リニューアルする美術館が魅力的になれば、中村橋駅に人が集まり、西武鉄道も積極的に協力してくれるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・西武鉄道では、沿線の色々な施設に係わる部署があり、施設整備やイベントなどを盛り上げていく動きがある。・今後中村橋駅周辺では美術館・図書館がリニューアルされ、来館者が増えることでまちの拠点になっていくなど、まちづくりが進んでいく。区からも情報提供しながら、併せて西武鉄道側で駅舎のアートな演出にご協力いただけるように調整していきたい。

まちなみ整備の方針（案）について

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料のまちなみ整備の方針（案）では、4つの場所を示しており、部会委員からの意見についても取り上げている。今後、さらに具体化していきたい。 ・「駅」については、例えば、池袋駅のようにホームをハリー・ポッター仕様のデザインとして改修し、ラッピングした列車に乗ってスタジオツアーへ行くようなことができれば良いと思う。今まで出されたいくつかの提案が実現すれば、中村橋駅に降り立った人が、駅舎や駅前広場でアートを感じられるようになるだろう。 ・「路」については、駅から美術館へ行く道路沿いのアート化である。中杉通りの商店街側からセブンイレブンのところを左折し美術館へ行く道では、何かアートの仕掛けをしたい。例えば、インターロッキングや道路をデザイン的にペインティングするなど、パッと見て美術館へ行く道だと感じさせるつもりとしたい。 ・「商店街」については、普通とは違う商店街であることを表したい。視覚的に効果を出すため、目線の範囲で何かアートの仕掛けが考えられる。例えば、街路灯のラッピングなど。 ・「広場」については、南口駅前広場の生垣をアートのモニュメントに代えていきたい。スクリーンを設置できると良いと思うが設置場所がない。例えば、広場に「デジタルサイネージ」などを設置して、現在開催中の美術館企画展や、アートマルシェ開催の宣伝などを流してはどうか。設置場所は、民間建物の壁は看板などあり難いため、公共部分のフェンスを改装して設置してはどうか。 ・「一体的に行う」という考え方はよいと思う。 ・電車から新しい美術館が見え興味をもってもらえれば、人が中村橋駅で降りてくれる。新美術館・図書館へ人を誘導する仕掛けづくりをしたい。 ・イベント（アートマルシェ）などは、まちの定例として、常に行っている体制をつくりたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新美術館の建物は「現代の富士塚」をイメージした個性的なデザインであり、駅から見ると印象的な景観になると思われる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに、大きなサインボードみたいなものが連続して続いていると、美術的な雰囲気は出ると思われる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで本部会で提案されたことや、いただいた意見の中で、実際にできることはどれか、調整事項は何かを、改めて精査し直している状況である。 ・今後検討を行う上では、バラバラに進めるのではなく、それぞれ組み合わせなど考えながら検討を進めていくことが望ましい。 ・検討を進める中では、さらに新しい提案なども出てくると思われる。

商店街通りの北の部分

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「構想によるまちなみ整備の範囲」は、商店街通り（中杉通り）の美術館から離れた北の部分を含めている。例えば、見て楽しめるものやお茶などが飲
----	---

	める場所などを作って足を運びやすいようにしてはどうか。事例として、石神井公園では使われていない店舗を「ふれあい広場」として利用し、ギャラリーやイベントを行ったりしている。そういうものを北の部分などに設けてはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街通り（中杉通り）の北の部分への人の誘導は、まちづくりのキーとなる課題である。 ・例えば、北部分にモニュメントなどを置くことで中杉通りの端まで人を誘導することも考えられる。回遊性を持たせることで、商店街も賑わっていくイメージである。

プロジェクション・マッピング

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント（アートマルシェ）などで、美術館の建物の壁を使い「プロジェクション・マッピング」などを行ってはどうか。例えば、美術館で展示しているものを映せば皆さんに見てもらえる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「プロジェクション・マッピング」は平らな壁でなくても、建物があれば写し出せる。例えば、クリスマスの時期に新しい美術館へ投影するなど。 ・昔、商店街でクリスマスにはイルミネーションを行っていた。最近では、練馬駅北口でイルミネーションを行っている。

キャラクターによるまちの紹介

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事例として、京都の博物館では、着ぐるみを着たキャラクターと学芸員さんが企画展を見て歩き、それを動画に撮り SNS で発信している。 ・例えば、美術館の「ネリビー」の着ぐるみを着た方が、中村橋の紹介ポイントを廻って、それを動画で撮り発信してはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力巡りという視点は良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターとしては、練馬区の「ねり丸」やサンツ中村橋商店街の「ニャンピー」などもある。「ニャンピー」については、イベントで出している。 ・今後、新美術館ができれば、キャラクターグッズを充実させるとよい。例えば、若い子がキーホルダーなど吊り下げてくれればまちの宣伝になる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・新美術館の建替えやまちなかに美術品等を置くことと合わせて、何らかの活動を継続的に行っていくことが大事である。それには、イベントをしていくことが最も訴求力がある。

緑の確保

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駅に近い美術館というのは、都内ではあまり見られないもの。駅と美術館を調和させるとした構想の内容が実現したものをぜひ見てみたい。 ・美術館の建替えでは、どれだけの樹木が切られるのか気になる。例えば、並木の検討ができればよい。夏には、美術館へ行く通りに並木の日影が欲しい。冬には、並木のイルミネーションもできると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・街中の並木としては、あまり大きくならない樹木が現実的である。例えば、

	<p>ハナミズキ（樹高は約3～8m）など。ハナミズキは、補助133号線沿道に植えられており、現美術館前にも植えられている。駅から美術館へ行く歩道沿いにあるとよい。なお、樹径が太くなるイチョウやポプラなどは後で大変である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並木のイルミネーションに併せて、駅北口の古いレールを使った街路灯（レールランプ）をラッピングできれば良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新美術館のプロポーザルでは、設計者は緑の配置を提案している。具体的な緑化については、今後の設計による。 ・練馬区では、建築行為を行う場合に緑被面積の確保を定めており、当規定分の緑は確保されることになる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の森緑地の位置については変わらない。ただし、新美術館・図書館への導入空間として再整備するため、現状とは違った緑地になると思われる。

子どもとの関係

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのアートの発想は良く、まちづくりに取り入れていきたい。周辺には中村西小学校、貫井中学校、練馬第三小学校、向山小学校、練馬第二小学校がある。例えば、学生さんに中村橋をイメージしたものを作ってもらい、ギャラリーのようなものができるとうい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発想力を活かしたらおもしろいと思う。 ・新しい美術館には、実際に手を動かしたり、読んだり、見たりする場所として「ブック・アート・キッズスペース」を設ける予定である。 ・また、作るだけでなく、作ったものをどう活かしていくかを、これから考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館の西側には練馬第三小学校があり、美術館がリニューアルすれば、当小学校の子どもたちの関心は高くなるだろう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新美術館は、子どもにとってわくわくするような、楽しい建物になると思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館そのものがアートである。美術の森緑地側や駅側ばかり強調しているようであるが、反対の美術館西側のイメージは、建替え後どうなるのか。また、美術館本体やイチョウの木はどうなるのか。 ・練馬第三小学校から見える美術館西側は、校庭や校舎の屋上から常に子どもたちから見える部分である。子どもたちへ刺激を与えるようなアートのものがあると良いのではないか。

3. その他

アートマルシェについて

- ・事務局からアートマルシェのパンフレットの説明。

事務局	<ul style="list-style-type: none">・事務局側では、荻原氏からアドバイスをいただきながら、アートマルシェについての検討を進めてきた。現在、アートマルシェのパンフレットが完成し、ホームページに掲載し始めた段階である。・アートマルシェとは、練馬区立美術館で1年間かけ行っている「アート de ねりまち」の集大成として令和6年1月に行うイベントである。そこへ、まちと美術館が連携する取組の試行として地域の方々の出店などを併せて実施するものである。・令和4年度に地域で実施したまちづくりアンケートの回答の中で、地元の特産としてご意見をいただいていた糰屋三郎右衛門の味噌、西貝農園の野菜や、中村橋駅周辺の地域の福祉作業所である貫井福祉工房などが出店する。また、地域に寮があり地域貢献の意向を示している竹中育英会も出店する。・サンツ中村橋商店街振興組合からは、YOU（焼菓子）、練馬風月堂（和菓子）、十一屋酒店（甘酒）、まめせん（コーヒー）が出店。甘酒については、糰屋さんの甘酒を当日飲めるように販売する予定である。・サンライフ練馬の3階研修室では、東部地域まちづくり課として、「中村橋について熱く語る会」を行う。中村橋のまちの魅力について語り合うイベントである。・令和5年12月21日からWEB上で、中村橋のまちの魅力について30字以内の“つぶやき”を募集開始する。当日は、本部のテント前で紙面に記入する形式で“つぶやき”を募集する。・今回、美術館とまちが連携する事業の試行として実施するものである。今後の継続については未定である。これを契機に、ソフト側から中村橋を盛り上げていければと考えている。・委員の皆さんにもぜひ当日ご参加いただきたいと考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・中村橋には既存の地域活動がある中で、それとは別の企画をしてみた。美術館、図書館、まちづくり、地域の方々という関係から、何かできないかと考えたもの。・なお、地域の方々へお声がけして、皆さんにご協力を得ながら進めてきたこともあり、1回で終わりとするのではなくできれば継続していくのが望ましい。・令和6年1月20日（土）、21日（日）は、美術館内で練馬区小学校連合図工展が行われる予定であり、来館者が多いことが想定される。人の多いときに併せて行ったほうがよいと考え、同日の日程とした。
委員	<ul style="list-style-type: none">・感想として、地元のお店が出店して楽しそうである。・次回があるとすれば、1つの提案として、例えば、手作り品の販売コーナーなどあると楽しいのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・まちと美術館の一体化という視点から、美術館と屋外を関連付けるコーナーがあってもよいのではないか。例えば、美術館内で販売している絵葉書（企画展の写真などを模したもの）を、屋外でも販売するなど。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちと美術館の一体化については、例えば、屋外で寒くなってきた方には、美術館に入って温まってもらうなどで対応しては。館内と屋外を巡回してもらうのもよい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館のイベントについては、工事期間中は美術の森緑地も閉鎖され出来なくなる。ともかく工事が始まる前のこのタイミングで一回行ってみる。 ・新美術館の完成では、オープン記念をふまえ改めてイベントを開催したい。それを継続的な年中行事として定着させていきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、やってみよう。やってみると、色々と課題も出てくるだろう。これらの体験をふまえ、美術のまち構想の骨子で示した3つの考え方や、ソフト事業面などについて、今後詰めていきたい。

「美術のまち構想」の今後について

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・美術のまち部会は、今回で終了である。構想等の策定など、今後のことが決まっていないうちで部会を終了とするのは申し訳ない。 ・検討については、事務局側で継続していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局側の検討については、来年度から行うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館のリニューアルオープンまでに、実現できることはしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、区で決まったことを知るためには、どうすればよいか。実現化が決まったことについては、できれば随時教えて欲しい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討状況などについては、今後、通知等でお知らせするなど情報提供していきたい。

本部会を終えての感想

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・最終回ということで、皆さんからご感想をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術のまち部会」と「駅周辺まちづくり部会」の2つに参加をさせていただいた。美術館の建替えを契機に始まった検討であるが、どちらかというところ「駅周辺まちづくり部会」の方が、商店街や補助133号線沿道、バスルートの見直しなど具体的なまちづくりを検討したと感じている。 ・令和6年度から、中村橋区民センターの改修が始まり、令和9年には新しい美術館ができる。素晴らしい美術館ができるでしょうから、盛り上げていきたい。一度は行ってみたい街「中村橋」となるよう、多くの人に来てもらえるよう頑張っていきたい。 ・新型コロナがやっと終わり、商店街の商売に関しては厳しい状況であるが、皆で頑張っていこうと考えている。お客さんを呼べる街として、美術館はあ

	<p>ってほしい。期待しているし、協力していきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は地元で64年間暮らしてきた。中村橋とは、どんな街なのかいろいろ考えてきた。「住みやすい」などの感想は人からよく聞く。今回、美術館のリニューアルと美術のまち構想が出てきたことで、住んでいる方にとっては、よりワクワクすることが増えたと思う。 ・現在、私の商店街は高齢化で若い人がいないが、なんとか一緒に協力していきたいと思っている。今後ともぜひよろしくお願ひしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、本部会に途中からの参加である。以前は貫井町会の副会長をしていたが、こういう部会があることは知らなかった。知らない人の方が多いと思われる。貫井町会は月に1回、定例会を行っており、美術のまち部会でのディスカッションの内容やアートマルシェなどを、町会の方々へ周知したい。 ・昔の中杉通りでは、阿波踊りや七夕などの色々なお祭りを行っており、活動的で評判は良かった。今回のまちづくりもアクティブであり、広く皆さんへ宣伝できれば良いなと思っている。 ・今回参加してみて非常に勉強になった。ありがとうございました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は20年程前から練馬美術館のサポーターとして関わってきたこともあり、今回の部会に参加させていただいた。皆さんからの意見を色々と聞いて、また私も意見を言わせていただいた。 ・建設中の美術館休館期間はどうなるのか、今後サポーターはどうなるのかなど、色々と不安はあるが、新しい美術館については期待している。新しい美術館でもサポーターをつくらせていただきたい。私も係わっていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最終回にイベントのアートマルシェが提示され、よくできていて驚いた。 ・既にまちとの循環が始まっていると思われる。例えば、映像の作成で山本高之さんと学校の繋がり、またそれが商店街と繋がっていければ、面白いことになるかなと感じている。 ・私は、検討会の参加が初めてであり、すごく楽しかった。商店街の方の生の声も聞いて、とても貴重な時間であった。ありがとうございました。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんから貴重なご意見をいただいた。新しい美術館、新しいまちづくりに活かしていきたいと思う。 ・まちと一体となった美術館とは、まちのどこからどこまでが美術館なのかよくわからないくらいまで、仕切りの無い交流を行うことでできるものと思われる。駅を降りると、美術の雰囲気まち全体から感じられる、そんな形になっていければ良いかなと思う。 ・そのためには建物や道などを整備するとともに、イベントなどの活動を地元の皆さんとぜひ一緒に繰り広げていくことが大事である。アートマルシェもその一つである。 ・イベントなどの活動は、新しい美術館になったらもっと重要になっていく。引き続き、皆さんにはご助言いただきたい。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

以上